

歴史ある伝統芸能を  
後世に伝えたい

三田 恭諭さん（29歳）  
胆沢区小山字北赤堰



真剣なまなざしで稽古に励む恭諭さん（中央）

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 平成24年度 施政方針・教育行政方針
- 7 平成24年度 当初予算
- 10 市内2小学校で新校舎が供用開始（真城小・岩谷堂小）
- 12 公民館と地区センターの一元化
- 13 ILC 希望のひかり
- 14 奥州◇市民劇「ひびけ木貝よ！」<sup>ほらがい</sup> グラフ
- 15 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPOの輪
- 20 子そだて広場  
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 21 地域安全情報  
わが家のアイドル  
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く  
夢トーク
- 23 クラブ紹介  
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



市立衣川中学校（早坂将校長・生徒109人）の入学式が4月6日、同校体育館で行われました。新1年生36人は、これから始まる中学生活への期待を膨らませながら、緊張した面持ちで式に臨みました。写真は、早坂校長の式辞での一コマ。新入生のしっかりと伸びた指先に、周囲も身が引き締まる思い。奥州市の将来を担う若者たちに、心からエールを送ります。

胆沢区に450年来伝わる国の重要無形民俗文化財、朴ノ木沢念仏剣舞・同保存会で若手のリーダー的役割を担う三田恭諭さん。

胆沢高校時代、当時の保存会会長に勧められ、学校活動の一環で剣舞に出会った。現在、同校の後輩3人を含む14人と共に活動を続ける。

5月の平泉町「春の藤原まつり」、8月の「北上・みちのく芸能まつり」が保存会の定例公演。ほかに各種イベントや結婚式にも招かれる。日ごろから自主練習に汗を流し、13種ある演目のうち、舞手として四つを習得した。

10分以上舞い続けることもある剣舞。「演舞は腰を落とすのが基本。見た目以上に体力が必要で、舞手の良しあし

「観客を喜ばせたい。演舞後の拍手喝采が気持ち良くて剣舞がやめられない」とその魅力を語る。自分たちが続けなければ剣舞は廃れる。後継者を育成する場が必要と、伝統芸能の未来へ思いをはせる。

現在、舞手として活躍する恭諭さん。「今後は舞いを磨くとともに、太鼓や笛などのお囃子も習得したい」と、剣舞に対する情熱は尽きない。

もそれで分かる——」。小学校からサッカーを続け、体力には自信がある恭諭さんもその厳しさをしみじみと語る。

ツーリングやドライブが趣味で、3年前にはバイクで日本一周を成し遂げた行動派。ことし、その思い出の地・北海道根室市を祖父の米寿祝として2人で訪れた。



みた・やすゆき◎昭和57年胆沢区小山字北赤堰生まれ。㈱北上交通観光勤務スクールバス運転手。朴ノ木沢念仏剣舞保存会所属。家族は、父、母、兄と妹、祖父